

本年度は41名

第五回大学院修了生

1963年2月11日 (2)

第17号

昭和三十七年度大学院修了生(第五回)は41名で、昨年の22名比べ二倍近くもあえている。基礎医学から十八名、臨床から二十三名出る。基礎医学では病理学教室が多く七名、臨床では外科が六名、内科が五名が自立している。修了予定者氏名は次の通り。

生理学 荒川浩一 放射線医学 裕之 神經精神学 赤松真、石川行一 佐藤尚信

医化学 今留淳 麻酔理 小兒科学 小林義朗、吉松彰

薬理学 小泉博人 石川稔生 呼吸器科 菅谷健彦、常景吉朗

病理学 青木敏郎 田中達也 小耳鼻咽喉科 武田敏夫 時永達巳

内科学 井沢明人 武田徳信 齡野可一

形岳三郎 小林延年 鈴木滿、高野正義、田辺義次、谷雄一、玉置哲也、橋一郎、長山忠

崎正英 植名勇男 松岡 年までは學内で四十八名、學外が

近藤洋一郎 久米通生 次のよう決った。卒業生六十八名のうち、本学付属病院は三十一

法医学 石坂明 上山蔵太郎 岸敷、劉雲華、波部浩二

公衆衛生学 清水文七 花岡建夫 十河正寛、道口博、石原信夫

細菌学 浦屋綾子 萩野彰 安達元明、伊藤慶一、齊藤彰男

病理学 小泉博人 石川稔生 旭中央病院】

内科学 井沢明人 武田徳信 野本泰正、春川章次、緑川隆

形岳三郎 小林延年 鈴木清麿

崎正英 植名勇男 松岡 【國立世田谷病院】

近藤洋一郎 久米通生 昭和三十八年度、インター生が

井澤明人 武田徳信 岩名、学外は五十七名である。一昨

年までは學内で四十八名、學外が

近藤洋一郎 久米通生 次のよう決った。卒業生六十八

名のうち、本学付属病院は三十一

法医学 石坂明 上山蔵太郎 岸敷、劉雲華、波部浩二

公衆衛生学 清水文七 花岡建夫 十河正寛、道口博、石原信夫

細菌学 浦屋綾子 萩野彰 安達元明、伊藤慶一、齊藤彰男

病理学 小泉博人 石川稔生 旭中央病院】

内科学 井沢明人 武田徳信 野本泰正、春川章次、緑川隆

形岳三郎 小林延年 鈴木清麿

崎正英 植名勇男 松岡 【國立世田谷病院】

近藤洋一郎 久米通生 昭和三十八年度、インター生が

井澤明人 武田徳信 岩名、学外は五十七名である。一昨

年までは學内で四十八名、學外が

近藤洋一郎 久米通生 次のよう決った。卒業生六十八

名のうち、本学付属病院は三十一

法医学 石坂明 上山蔵太郎 岸敷、劉雲華、波部浩二

公衆衛生学 清水文七 花岡建夫 十河正寛、道口博、石原信夫

細菌学 浦屋綾子 萩野彰 安達元明、伊藤慶一、齊藤彰男

病理学 小泉博人 石川稔生 旭中央病院】

内科学 井沢明人 武田徳信 野本泰正、春川章次、緑川隆

形岳三郎 小林延年 鈴木清麿

崎正英 植名勇男 松岡 【國立世田谷病院】

近藤洋一郎 久米通生 次のよう決った。卒業生六十八

名のうち、本学付属病院は三十一

法医学 石坂明 上山蔵太郎 岸敷、劉雲華、波部浩二

公衆衛生学 清水文七 花岡建夫 十河正寛、道口博、石原信夫

細菌学 浦屋綾子 萩野彰 安達元明、伊藤慶一、齊藤彰男

病理学 小泉博人 石川稔生 旭中央病院】

内科学 井沢明人 武田徳信 野本泰正、春川章次、緑川隆

形岳三郎 小林延年 鈴木清麿

崎正英 植名勇男 松岡 【國立世田谷病院】

近藤洋一郎 久米通生 次のよう決った。卒業生六十八

名のうち、本学付属病院は三十一

法医学 石坂明 上山蔵太郎 岸敷、劉雲華、波部浩二

公衆衛生学 清水文七 花岡建夫 十河正寛、道口博、石原信夫

細菌学 浦屋綾子 萩野彰 安達元明、伊藤慶一、齊藤彰男

病理学 小泉博人 石川稔生 旭中央病院】

内科学 井沢明人 武田徳信 野本泰正、春川章次、緑川隆

形岳三郎 小林延年 鈴木清麿

崎正英 植名勇男 松岡 【國立世田谷病院】

近藤洋一郎 久米通生 次のよう決った。卒業生六十八

名のうち、本学付属病院は三十一

法医学 石坂明 上山蔵太郎 岸敷、劉雲華、波部浩二

公衆衛生学 清水文七 花岡建夫 十河正寛、道口博、石原信夫

細菌学 浦屋綾子 萩野彰 安達元明、伊藤慶一、齊藤彰男

病理学 小泉博人 石川稔生 旭中央病院】

内科学 井沢明人 武田徳信 野本泰正、春川章次、緑川隆

形岳三郎 小林延年 鈴木清麿

崎正英 植名勇男 松岡 【國立世田谷病院】

近藤洋一郎 久米通生 次のよう決った。卒業生六十八

名のうち、本学付属病院は三十一

法医学 石坂明 上山蔵太郎 岸敷、劉雲華、波部浩二

公衆衛生学 清水文七 花岡建夫 十河正寛、道口博、石原信夫

細菌学 浦屋綾子 萩野彰 安達元明、伊藤慶一、齊藤彰男

病理学 小泉博人 石川稔生 旭中央病院】

内科学 井沢明人 武田徳信 野本泰正、春川章次、緑川隆

形岳三郎 小林延年 鈴木清麿

崎正英 植名勇男 松岡 【國立世田谷病院】

近藤洋一郎 久米通生 次のよう決った。卒業生六十八

名のうち、本学付属病院は三十一

法医学 石坂明 上山蔵太郎 岸敷、劉雲華、波部浩二

公衆衛生学 清水文七 花岡建夫 十河正寛、道口博、石原信夫

細菌学 浦屋綾子 萩野彰 安達元明、伊藤慶一、齊藤彰男

病理学 小泉博人 石川稔生 旭中央病院】

内科学 井沢明人 武田徳信 野本泰正、春川章次、緑川隆

形岳三郎 小林延年 鈴木清麿

崎正英 植名勇男 松岡 【國立世田谷病院】

近藤洋一郎 久米通生 次のよう決った。卒業生六十八

名のうち、本学付属病院は三十一

法医学 石坂明 上山蔵太郎 岸敷、劉雲華、波部浩二

公衆衛生学 清水文七 花岡建夫 十河正寛、道口博、石原信夫

細菌学 浦屋綾子 萩野彰 安達元明、伊藤慶一、齊藤彰男

病理学 小泉博人 石川稔生 旭中央病院】

内科学 井沢明人 武田徳信 野本泰正、春川章次、緑川隆

形岳三郎 小林延年 鈴木清麿

崎正英 植名勇男 松岡 【國立世田谷病院】

近藤洋一郎 久米通生 次のよう決った。卒業生六十八

名のうち、本学付属病院は三十一

法医学 石坂明 上山蔵太郎 岸敷、劉雲華、波部浩二

公衆衛生学 清水文七 花岡建夫 十河正寛、道口博、石原信夫

細菌学 浦屋綾子 萩野彰 安達元明、伊藤慶一、齊藤彰男

病理学 小泉博人 石川稔生 旭中央病院】

内科学 井沢明人 武田徳信 野本泰正、春川章次、緑川隆

形岳三郎 小林延年 鈴木清麿

崎正英 植名勇男 松岡 【國立世田谷病院】

近藤洋一郎 久米通生 次のよう決った。卒業生六十八

名のうち、本学付属病院は三十一

法医学 石坂明 上山蔵太郎 岸敷、劉雲華、波部浩二

公衆衛生学 清水文七 花岡建夫 十河正寛、道口博、石原信夫

細菌学 浦屋綾子 萩野彰 安達元明、伊藤慶一、齊藤彰男

病理学 小泉博人 石川稔生 旭中央病院】

内科学 井沢明人 武田徳信 野本泰正、春川章次、緑川隆

形岳三郎 小林延年 鈴木清麿

崎正英 植名勇男 松岡 【國立世田谷病院】

近藤洋一郎 久米通生 次のよう決った。卒業生六十八

名のうち、本学付属病院は三十一

法医学 石坂明 上山蔵太郎 岸敷、劉雲華、波部浩二

公衆衛生学 清水文七 花岡建夫 十河正寛、道口博、石原信夫

細菌学 浦屋綾子 萩野彰 安達元明、伊藤慶一、齊藤彰男

病理学 小泉博人 石川稔生 旭中央病院】

内科学 井沢明人 武田徳信 野本泰正、春川章次、緑川隆

形岳三郎 小林延年 鈴木清麿

崎正英 植名勇男 松岡 【國立世田谷病院】

近藤洋一郎 久米通生 次のよう決った。卒業生六十八

名のうち、本学付属病院は三十一

法医学 石坂明 上山蔵太郎 岸敷、劉雲華、波部浩二

公衆衛生学 清水文七 花岡建夫 十河正寛、道口博、石原信夫

細菌学 浦屋綾子 萩野彰 安達元明、伊藤慶一、齊藤彰男

病理学 小泉博人 石川稔生 旭中央病院】

内科学 井沢明人 武田徳信 野本泰正、春川章次、緑川隆

形岳三郎 小林延年 鈴木清麿

崎正英 植名勇男 松岡 【國立世田谷病院】

近藤洋一郎 久米通生 次のよう決った。卒業生六十八

名のうち、本学付属病院は三十一

法医学 石坂明 上山蔵太郎 岸敷、劉雲華、波部浩二

公衆衛生学 清水文七 花岡建夫 十河正寛、道口博、石原信夫

細菌学 浦屋綾子 萩野彰 安達元明、伊藤慶一、齊藤彰男

病理学 小泉博人 石川稔生 旭中央病院】</

本学、リレーで四位

八方尾根細野スキー場で

第五回東日本医科学総合体育大会冬季大会スキー部門は、一月二十七日から四日間にたって、長野県八方尾根細野スキー場で行なわれた。参加校は、初参加の北海道大、信州大を加えて十七校。参加者は約百五十名。優勝校は北大で、弘前大をおきて初参加で、初優勝。

依然強い雪国勢

大会は、二十七日四時から、名木山会場で行なわれた開会式から始まつた。翌二十八日は、九時半から、八方尾根スキー場で大回転がまず行なわれ、ついで午後からは、会場を名木山に移して、リレーが開始された。アルペン競技に弱い本学は距離競技に全力をそぎ、栗林、青川、野口、深尾の諸君の順で走り、八十四分四十四秒のタイムで四位にくいこみ、貴重な点をあげた。二十九日は午前中、八方尾根スキー場で滑降が行なわれ、午後は名木山会場で十キロの距離競技が行なわれ、本学の栗林氏は、四十六分十一秒で十一位。

最終日の三十日は、名木山会場で回転競技にばり、本学の栗林氏は、「回目」分十五秒八、一回目一分二十秒一、合計二分三十六秒で、八位にとどまった。

若手の進

出を望む

金融的について、昨年よりレベル

の向上が目立ち、特に選手層のあ

るが、やはり層のうすさは決定

的で、わずかに屈和の大井氏の活躍が目についただけである。

本学を含めて東京勢に望まれることとは、若い選手層をきたえることであつた。天候は、会期中を通じて、割合にめぐまれ、小雪程度で、八位にとどまつた。



リレーで健闘する野口（左）、深尾（右）

へパトーマか血 管肉腫かで熱論

第二回学生C・P・C

二回目をむかえた学生C・P・Cは、一月二十四日四時から、基礎新館第一講義室で細江静男先生の講演が行なわれた。

これは、学生自治会の主催によるもので、ブラジルから數十年ぶりに日本へ帰國され、各地を講演してまわっておられる細江静男先生の医療に対するお話を聞きたいと希望された。

細江先生は、慶應義塾医学部卒業後、ブラジルへわたり、在留邦人の医療にずっとたずさわつてこられた。

先生は、長年の功績により、昨年

志に日本医師会から表彰されただけでなく、日本海外へ渡り、日本の医学を重んじて、伝統を重んじることは、我々日本人も

学んでいい点ではないか、また日

前途有望なブラジル

学生もそうあってほしいと話され

たりである。

金城の講義室は、好奇心もてつだ

つて、満員。

演題は、「ブラジルにおける在留

生の衛生状態」であったが、先

生の都合により、スライドで主と

してブラジルの在留邦人の一般

生活についてお話をされた。

最後に、先生は、ラテン民族のこ

とにふれられ、かれらが歴史的な

なごやかな雰囲気で子すめられ、

なごやかな雰囲気で子すめられ、</p



【カットは同窓東京支部長北定一先生提供】

カルテ整理に くれる毎日

兵庫支部

新春を迎えるにあたり、千葉ののな同窓会員の皆様お揃いで、ますます御健康に、いよいよ御多幸気象庁予報官の解説によれば、酷寒の襲来は九年周期に起こると申しますが、当地神戸地方最低気温時は零下六度に下り、水道管凍結して使用不能の日もありました。大雪積の無く、平常通り暮しております。近年、社会保険国保険の患者のみ多く、第一線で外来患者の診療に従事する者はそのカルテの処理、診療報酬請求書の整備に一ヶ月の約三分の一の日時費やすといわれております。

高崎は白衣観音と上州名物のなんぞの市部をまとめられて、公とやうて有名ですが、最近では首私にわって活躍されておられます。そこで開いたりまして、じ多分にもれますが、職業がらお互に多忙のため書の整備に一ヶ月の約三分の一の日時費やすといわれております。

眠りをさました同窓生

高崎新支部誕生

高崎は既に故人になられた岸祐雄先生、高崎では橋正綱先生がそ西上州の会員相互の親睦をはかるひと二十名近くの収容があり、両

高崎は既に故人になられた岸祐雄先生、高崎では橋正綱先生がそ西上州の会員相互の親睦をはかるひと二十名近くの収容があり、両

といふことは存じます。まずはよりあります御報告まで。

【小山栄

島田12卒

はばまれて

島根支部

島田

大雪に

はばまれて

島根支部

島田

大雪に